

第492号 令和6年9月1日
4月、7月、9月、11月、1月号
年5回発行



とやま労基

第492号
2024.9

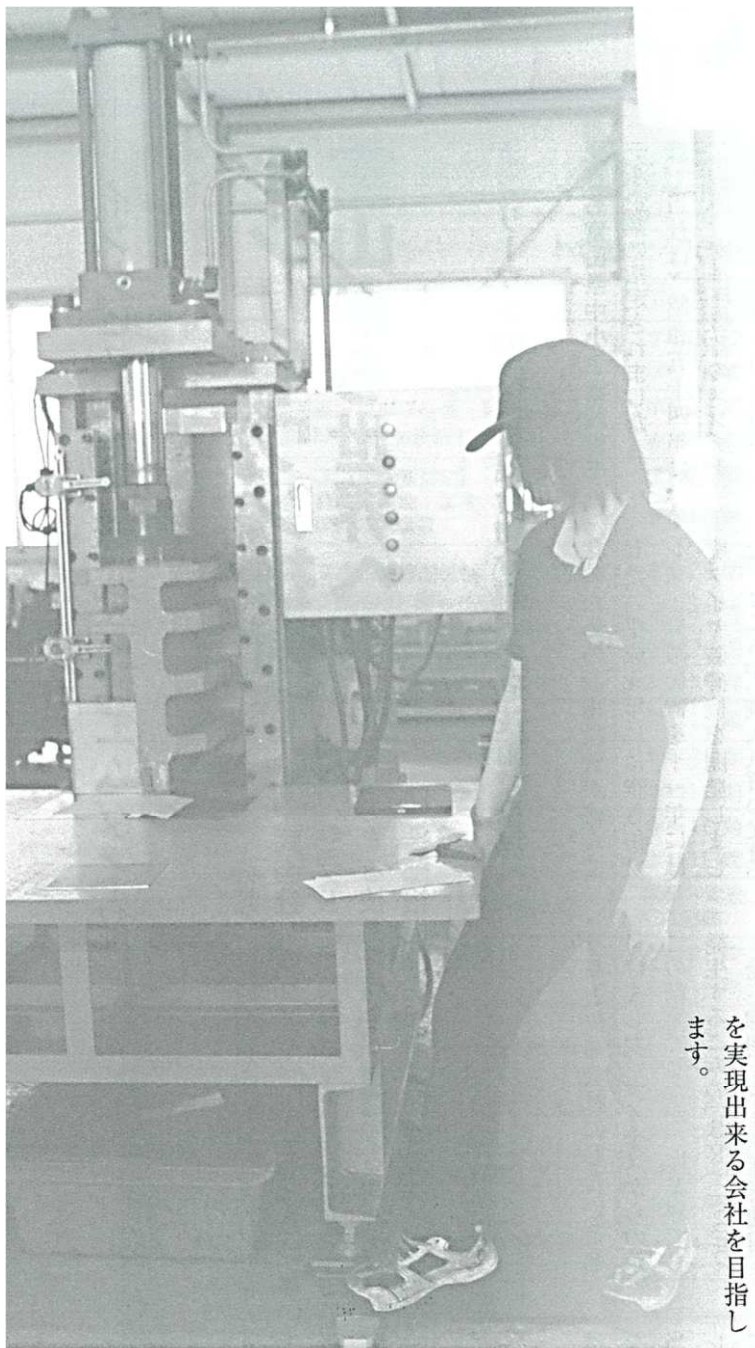


株式会社エムタイヤ

従業員の皆さんに回覧してください

■ 発行者 一般社団法人 富山県労働基準協会
〒930-0873 富山市金屋767番30 TEL (076) 442-3966 FAX (076) 442-3992
HPアドレス <https://www.toyamarokikyo.or.jp/>
E-mail honbu@toyamarokikyo.or.jp
● 富山支部 〒930-0873 富山市金屋767番30
● 高岡支部 〒933-0913 高岡市本町2番1号 北日本高岡本町ビル2階
● 魚津支部 〒937-0802 魚津市下村木町3394番1号
● 砺波支部 〒939-1332 砺波市永福町6番28号 砺波商工会議所内3階

TEL (076) 405-0666 FAX (076) 405-0660
TEL (0766) 25-8866 FAX (0766) 25-8867
TEL (0765) 22-4977 FAX (0765) 22-4702
TEL (0763) 33-7067 FAX (0763) 33-7064



会社概要

創 業 一九七九年六月
 設 立 二〇〇五年十二月
 本 社 滑川市中村五五一―二
 従 業 員 一〇名



株式会社エムダイヤ

■ 事業内容

- 一、リサイクルプラントの製造・販売
- 二、各種産業機械の修理・改造・中古機械販売
- 三、アルミ、樹脂等のリサイクル材の加工・販売

■ 経営理念

- 一、私たちは独自の技術を発展させ、循環する資源による新しい可能性を創造します。
- 二、私たちは未来の人々のために、笑顔にあふれた子供達が遊べる地球環境を残すことで、社会に貢献します。
- 三、私たちは共に学びながら高めあい、夢・希望・目標を実現出来る会社を目指します。

Contents

2024.9

会員企業紹介 Vol.58	
株式会社エムダイヤ	1
インタビュー⑤⑧	
オンリーワン技術で富山から世界へ	2
協会ニュース	
第52回富山県産業安全衛生大会	4
講演会要旨「攻めの安全とは ～ヒューマンエラー防止に向けた管理者の持つべき視点～」	
塚原 利夫	6
支部だより	8

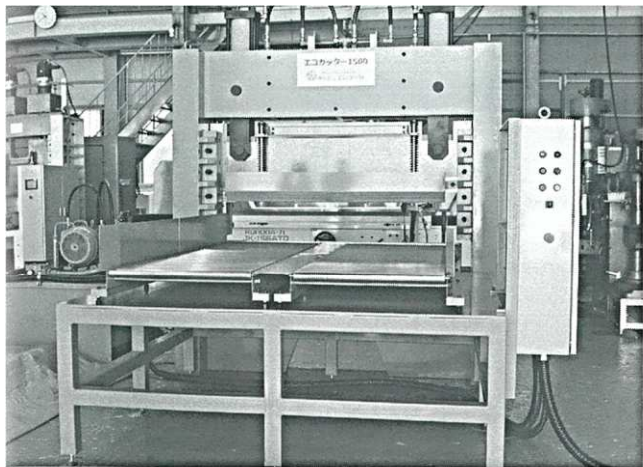
災害事例	10
エッセー⑤① 砺波支部副支部長 上埜慎也	11
Health Care	
沖縄に学ぶ心身の健康習慣 小杉由起	13
行政だより	14
SHORT REST	18
知っておきたい法律判例 Q&A	
退職金 蓑 健太郎	19
講習のお知らせ (防災団体・協会等)	20

オンリーワン技術で 富山から世界へ

分離・破碎機を中心としたリサイクル機械を製造販売する株式会社エムダイヤ。「もったいない！」をカタチに[®]をコンセプトに、不要になったものを「捨てる」から「再利用・再生」する技術を磨き、創造する同社の森弘吉代表取締役、常川祐一製造部担当部長、営業部の道林桃香さんにお話をうかがいました。

オンリーワンの異素材混合物分離・破碎技術で世界へ

先日も富山県中小企業経営モデル企業に指定されました
森 当社は、昭和五十四年に父の誠一が油圧機器のメンテナンス事業を行うために創業しました。ちょうど第二次石油危機が発生し、省エネ、省力



エコカッター1500

化のための設備投資が盛んでした。平成元年には空き缶プレス・分離装置を十一年には廃タイヤ破碎機を開発しました。ところが、職人気質の父は、自分の思いを優先するあまり、資金繰りが悪化し、立ち行かなくなってしまう。それでも、支援してくださいる人々に支えられて、この技術を生かすために十七年、前職の工作機械メーカーを退職して、父と二次創業する形で事業を再開しました。現在の株式会社エムダイヤに改称したのは二十年。Mは、機械 = Machine 機構・仕組 = Mechanism 修理工・整備工 = Mechanic 補修・整備 = Maintenance そして私と父の名字「MORI」を表し、ダイヤモンドのように小さくてもキ

ラリと光る会社にしたと名付けました。マイナスからの第二の創業でしたが、産業界でも発生するごみの「3R」(Reduce = 発生抑制・Reuse = 再使用・Recycle = 再資源化)が脚光を浴び始めたタイミングでした。二十一年に廃タイヤ破碎機を改良して高い分離精度と耐久性を向上させた分離・破碎機を開発。廃タイヤに含まれる鉄ワイヤーをゴムと分離して効率的に取り出すことができるとなりました。

どのような技術ですか？

常川 当社のリサイクル機械の特徴は、単に破碎するだけでなく、そぎ取り、せん断して、素材ごとに分離処理までします。例えば、通信用のケーブル

は、鉄芯や樹脂、光ファイバーなどの異素材でできています。当社の分離・破碎機「エコセパレ」は、これを破碎すると同時に鉄芯と樹脂(光ファイバー)に分離して排出します。また、基板剥離機「エココレクター」は、これまで破碎処理が難しかった廃棄基板からチップ(半導体やコンデンサ等)を瞬時に剥ぎ取るので、レアメタルや貴金属の効率的な回収が可能です。そして、当社はこれらの機械をすべて鋼材や丸棒といった、新規素材を使って製造するタイプと、一部に再利用品を使うタイプを製造してアップサイクルにも取り組んでいます。



中：森 弘吉さん(代表取締役)

左：常川祐一さん(製造部担当部長)

右：道林桃香さん(営業部)

History

- 1979年 創業
- 1989年 自社製品の開発に事業を拡大
- 1999年 廃タイヤ破砕機を開発。資金繰りが立ち行かず解散
- 2005年 資本金300万円で新会社を設立(2次創業)
- 2008年 社名を株式会社エムダイヤに改称
- 2009年 廃タイヤ破砕機を大幅に改良し、エコセパレ分離・破砕機として販売開始
- 2010年 本社を現地に移転
- 2011年 東京事務所を開設
- 資本金を2000万円に増資
- 2022年 資本金を3600万円に増資し、新工場を立山町に新設

開発・鋼材調達から製造・販売・メンテナンスまで内製化

開発から鋼材調達、製造・販売・メンテナンスの一貫体制です。森 はい。販売も商社やエンジニアリング会社を通さず、メンテナンスも含めて内製化しています。内製化は、メンテナンスが社内でするだけで

なく、価格決定権も持てる利点があります。富山で成功している地場の大手企業を見ると、皆さん製販一貫体制です。ただ、自己満足にならないよう、特許・商標やさまざまな受賞歴といった、外部の指標

で独自性を担保しております。製品が完成したら、最後に弁理士に入ってもらって特許が取れるかを確認します。現在特許出願件数は十一件。今年もアメリカと中国の国際特許を取得しました。

少ない人数でも一人ひとりが多能工。毎日いろんなことができるから面白い

IoTモジュールエココントローラーなどの開発は誰が

常川 社員数は現在十名で、うち営業が三人と総務三人、製造が四人。うち女性は四名です。一人ひとりが多能工で、営業でも破砕試験をする、総務でも営業に近いことをする。新入社員にはなんでもできる

ように教えています。道林 毎日いろんなことができるから面白いですね。部署を超えて、わからないことを聞け、垣根の低い環境にあるのも魅力です。私は営業部に属していますが、XやYoutubeでの発信も担当しています。IoTモジュールコン

トローラーの担当を含めたシステム関連全般の業務も行っていきます。森 少ない人数で製造も販売も総務もこなすので、工数管理・勤怠管理のクラウドサービスを導入して効率化。また、有給休暇は一時間単位にし、一ヶ月に一度の全体会議で、スケジュールや休暇について全員に周知し共有しています。社員からは、「休みが取りやすい」との声が聞かれます。

先ほど自己満足にならないよう、外部の指標で独自性を担保していると言いましたが、それは社内体制も同じで、「とやま女性活躍企業」や「健康経営」、「ホワイト企業認定」なども積極的に認定の取得をしています。

常川 当社は、大型機械を製造しているため、労働災害が発生すると死亡事故になりかねません。このため社長は、うるさいくらい5Sを徹底し、月一回程度の巡回で改善点が出るとすぐに解決してきています。ここ十数年で、労働災害は二年前に一度だけ骨折事故がありました。その後社員全員で検証を行い事故の再発防止に努めています。

森 私は、木が年輪を重ねるように、着実に会社を成長させ、社員が幸せになれる、いわゆる「年輪経営」をしたいと思っています。売上げ、利益は結果です。結果を追い求めるより、楽しく、自己成長できる会社をこれからも目指していきたいと思っています。



社内で制作した工具台



基板からチップを剥がし、レアメタルを取り出すことができる